

## < 小学校特別活動 >

# 子ども一人ひとりが意欲的に取り組む学級活動の工夫

- 第4学年・体験学習(環境)の実践による話し合い活動を通して -

石垣市立川平小学校 教諭 東盛 幸江  
石垣市立白保小学校 教諭 福地 かおり  
石垣市立平真小学校 教諭 上原 太郎  
県立教育センター研究主事 黒木 義成

## テーマ設定の理由

今日、学校教育においては、子ども一人ひとりの良さや可能性を生かし、主体的、創造的に生きていくことができる資質や能力の育成に目指すことが求められている。

特別活動は、その目標が示しているように「心身の調和のとれた発達」「個性の伸長」「集団の一員としての自覚」「協力してよりよい生活を築く、自主的、実践的な態度」を図ることを、集団活動を通して育成していく活動である。

その目標を達成するため学校生活におけるさまざまな場で活動が行われている。その具体的な場が学級活動、児童会活動、クラブ活動、および学校行事である。

そのなかでの学級活動の内容は、新学習指導要領では、「学級を単位として学級活動の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと」と示されている。社会的な少子化傾向による兄弟数の減少からくる人間関係の希薄化が問題になっている今日、基本的な生活習慣や人間関係を学ぶ場としての学級集団の担う場は極めて重要である。

学級活動は児童の活動として、特に自発的・自治的に行われる要素を多く持っていると言える。その集団の一員として同じ目的に向かって、一人ひとりの持ち味を生かしながら、役割を分担し、目標の達成を図るために重要な役割を担うのが話し合い活動であると考えられる。

しかし、これまでの話し合い活動の指導過程を振り返ってみると、すべての児童が意欲的に話し合いに参加できるような手立てが不十分であった。そのため児童一人ひとりが自分自身の気持ちをのびのびと発表できるような指導過程を工夫する必要があると感じた。

そこで、話し合いの議題をより身近な問題より抽出し、より自分自身の直接的なこととしてとらえ、話し合いを進めることができるように、環境美化に関する指導に視点を置き、環境美化活動(身辺環境)、体験活動を「総合的な学習」をはじめとする他教科との連携を通し、体験学習から生じる諸問題を子ども達が議題として取り上げ、話し合いを展開していく中で、一人ひとりが意欲的に話し合いに取り組むことができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

## 研究内容

### 1 学級活動の特質・指導内容

(1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。

学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理など

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。

希望や目標をもって生きる態度の形成、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の育成、学校図書館の利用、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、学校給食と望ましい食習慣の形成など

### 2 体験学習を通しての話し合い活動

特別活動では、集団での体験的な活動が重要である。しかし、体験が一過性ではなく、子ども達の全人的成長に結びついていくためには、その体験が子ども達自らの自主的な活動であることが何よりも重要である。

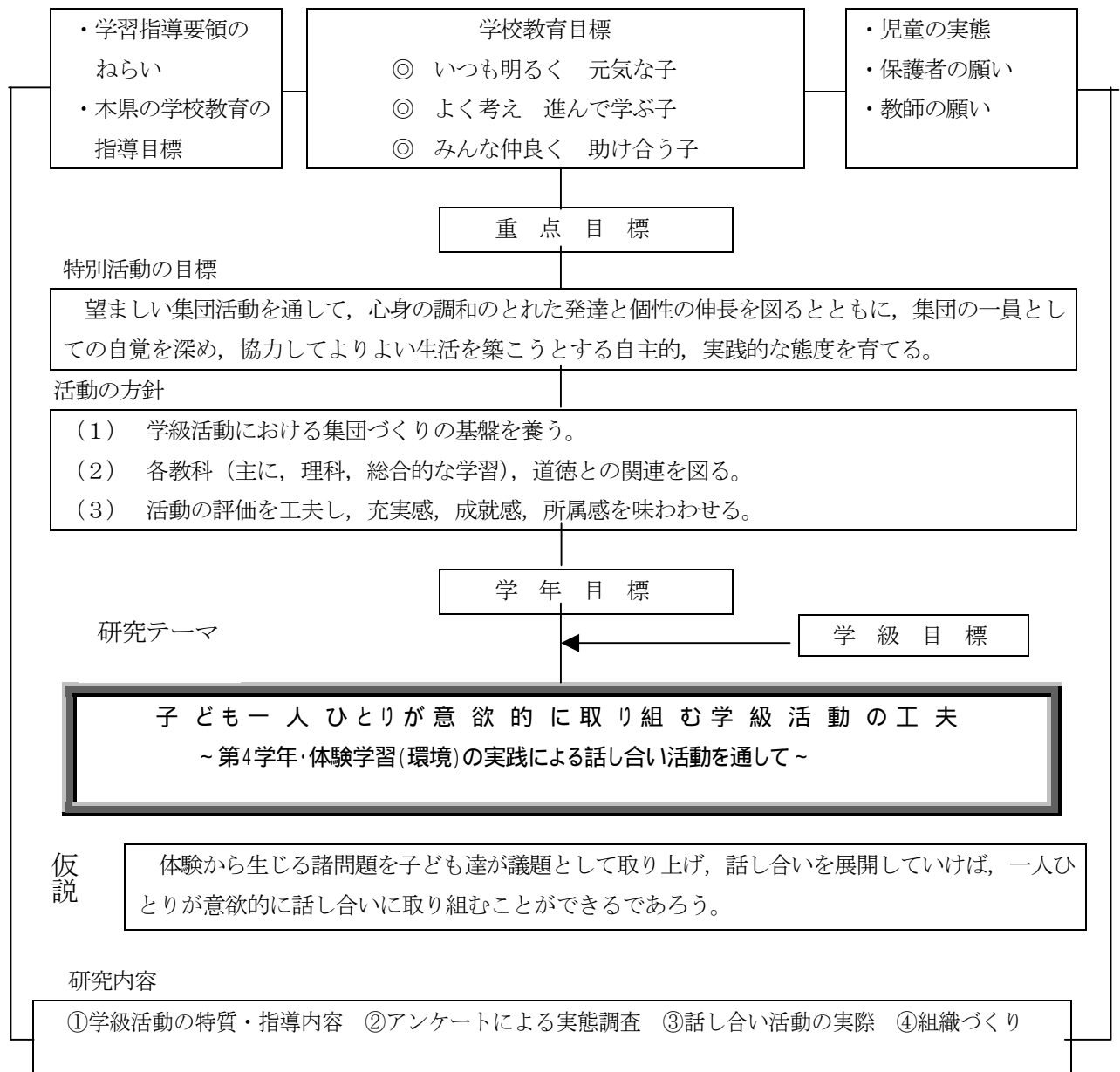
多様な活動場面において、子ども達は様々な成功体験、失敗体験を持つだろう。また、喜びや感動、人間関係のすばらしさやその途上での悩み等を共通体験・個人体験することもあるだろう。そうした自己成長につながるような体験を得るためには、その活動にどれだけ積極的、自主的に関わったかが重要である。子ども達の生活意欲を喚起し、自発性・自治性を育成し、自主的・実践的な活動の展開を促すことが、特別活動の指導において強く求められている。

つまり、集団での体験学習おいての多様な活動場面の共通・個人体験の充実により、学級活動において、児童の自発的、自治的な話し合い活動が一人ひとり自分自身のあらゆる体験をベースにして、より一層活発になされ、話し合いの順序や方法等も感覚的に身につけることができる。

このように前述のことなどから、話し合い活動の指導の際に、共通・個人体験から生じる諸問題をもとに話し合いが展開されるのならば、体験学習が学級活動における話し合い活動の活性化・充実に効果的に作用すると考える。

### 3 研究の全体構想図

学校教育目標、地域や生徒の実態、特別活動の目標等との関連を図りながら、本研究テーマの達成を目指すために研究仮説を設定した。ここでは、子ども達の体験学習から生じる諸問題を一人ひとりが解決を目指し、意欲的に話し合い活動を行うことによって、本研究テーマに迫っていくことができると考え、次の研究構想図を作成した。



# 指導の実際

## 学級活動指導案

日時 2000年10月13日(金) 5校時  
対象 石垣市立平真小学校 4年2組  
36名(女子19名 男子17名)  
指導者 上原太郎

### 1 題材名 教室裏の畑から ~野菜作りを通して自然の恵みを感じよう~

#### 2 題材設定の理由

本学級の児童は、進級当初より教室裏の畑の整備・野菜作り、視聴覚室前花壇の美化活動等を通して、自らの身近環境を整えることの大切さを学習している。

特に、理科での学習をきっかけにし、また、社会科での水やゴミの学習をヒントにして、総合的な学習の時間との連携において、さまざまな「環境」について話し合い活動や体験学習を展開している。また、地域の自然環境のすばらしさを体感しようということで、1学期学級PTA活動においても「おもと岳登山」を体験している。

このように多くの体験を重ねる中で、子ども達の環境に対する意識はプラスの方向へ少しずつ変化しつつある。しかし、まだまだ実践的な態度へはつながっていない。つまり、調べ学習新聞などでの記事においては環境保全の重要性を立派にうたえることができるが、日常的な清掃活動、ゴミの分別、花壇や畑の野菜への水やりなど、責任を持って行えない児童が多く存在するということである。

このようなことから、一般的な社会問題とされている海や山などの自然環境の保全を媒体にし、直接的な環境学習の展開を進めるのではなく、ごく身近な教室環境、学校環境の美化を中心に環境美化学習を進めていくことが本学級の児童には適当であるという考えを前提に学習を進めるようにする。

中でも、近年話題になっているEM菌を使用した「土作り」に視点を置き学習を進める。また、その土のもとでの野菜づくり・花づくりを行い、「自然(正常)な状態」での土では野菜は元気に育ち、花も鮮やかに咲くというように、目に見える成果を常に提供する中で、より意欲的に学習に取り組んでいけるようにする。

さらには、子ども達が育てた野菜を何らかの形で販売し、それによって得た金銭により自らの教室環境などを充実させ、「自然の恵と人」との関連を感じてもらいたいと思っている。また、このように土、自らが作った野菜、人がある意味同じサイクルの中で存在するということを、体験的に認識することによって、さらにスケールの大きい自然環境に関する学習を次のステップにおいて発展的・応用的に進めることができるのではないかと考え、本題材を設定した。

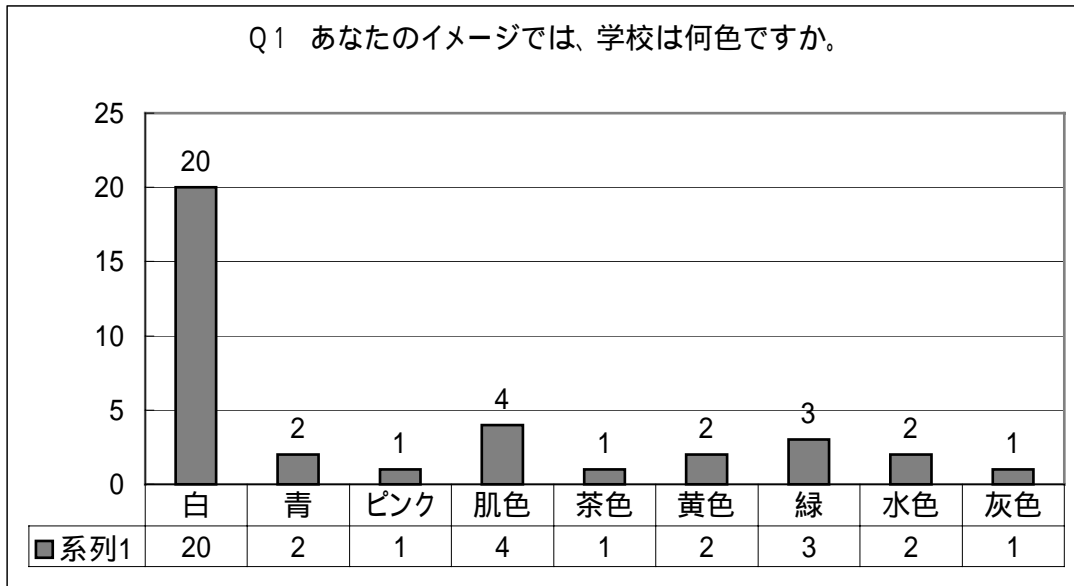
#### 3 児童の実態

##### (1) 環境美化に関する意識調査(アンケート調査結果)

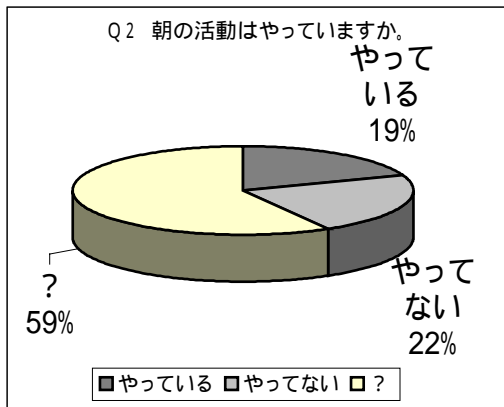
この調査は、本学級児童の環境美化に関する意識調査であり、その調査結果を考察することによって、本研究の手立てとし、今後の子ども達の学校生活に役立てるために実施した。

- ① 調査対象：本学級児童36名(男子17名 女子19名)
- ② 調査日：2000年9月13日(水) 3校時 道徳
- ③ 調査方法：質問紙法による児童の回答で、回答用紙に記入
- ④ 調査項目：8項目

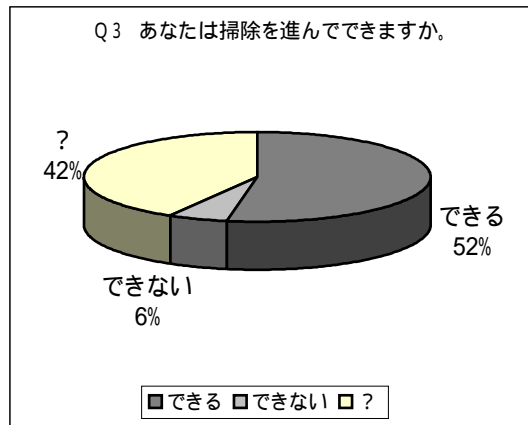
Q1 あなたのイメージでは、学校は何色ですか。



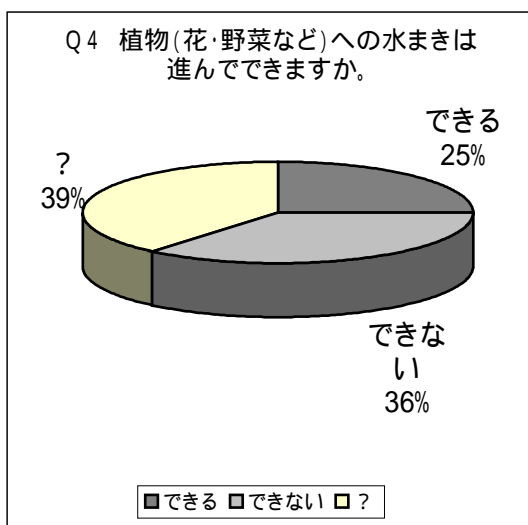
Q2 朝の活動はしていますか。



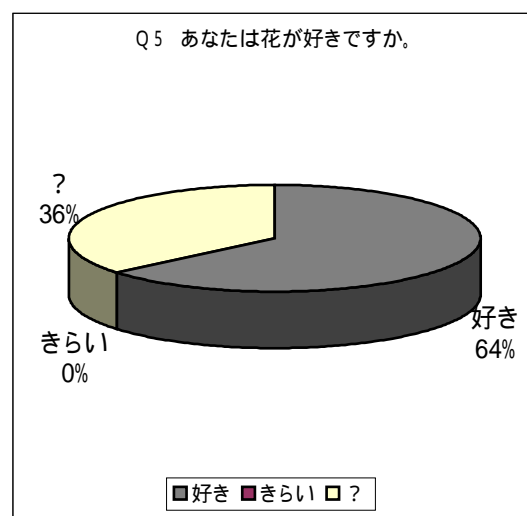
Q3 あなたは掃除を進んでできますか。



Q4 植物(花・野菜など)への水まきは進んでできますか。

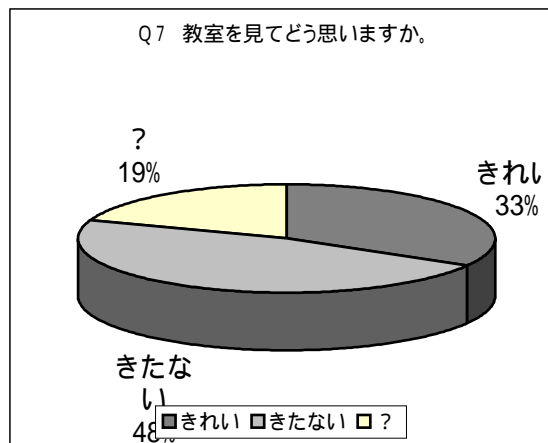
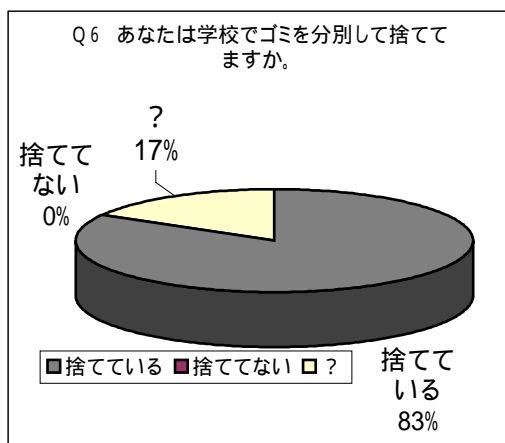


Q5 あなたは花が好きですか。

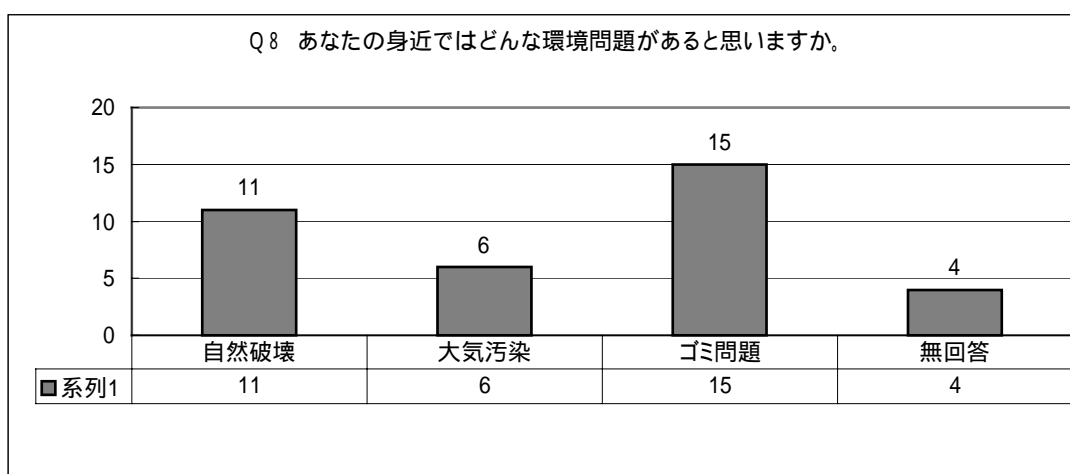


Q6 あなたは学校でゴミを分別して捨てていますか。

Q7 教室を見てどう思いますか。



Q8 あなたは身近ではどんな環境問題があると思いますか。



自然破壊…海，砂浜が汚れてきている・赤土流出などの回答

大気汚染…排気ガスが多くなっているなどの回答

ゴミ問題…ゴミを分別しない人が多い・ゴミが多くなっているなどの回答

### 考察

「花が好き」「教室の環境は改善の余地有り」との意識調査結果から、本学級の児童の環境美化・自然に対する感受性は、自然な状態で育っていると考えられる。しかし、Q4の結果から自然に対する判断力・行動力などの実践的な力はしっかりと定着していない。ただ、「ゴミを分別して捨てているか。」という設問においては、ほとんどの児童が「分別して捨てている」と回答していることから、ある意味においては、環境美化に対する実践力が定着しつつあるという解釈もできると思う。

環境美化に理解を深めた上での実践力は、これからの系統的な指導において定着するものと考えられる。

## (2) 学級活動(話し合い活動)

### ① 話し合い活動の実態

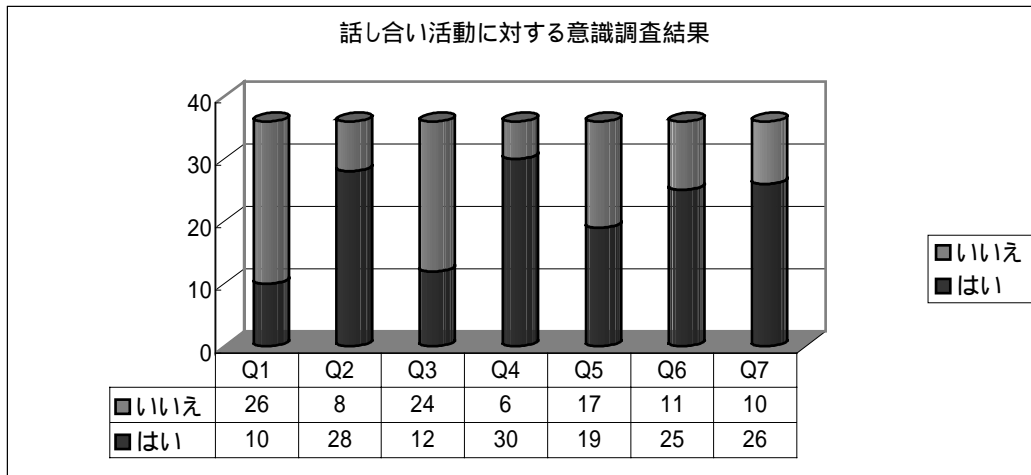
当初、理由付けを含んでの意見をスムーズに発言できる児童が少なく、話し合いが展開・発展しにくい段階にあった。また、体験的に話し合い活動は採決を採る場面というようなとらえ方をしている児童が多く、本質的な話し合いがなされないまま採決を採るためだけに案が出されるといった傾向が根強かった。そこで、提案の際での理由付けを義務化することによって、ある程度話し合い活動の本来の意義に少しずつ気づきはじめている児童が見られてきた。

話し合い活動の中での発言は女子からの提案が比較的多く、男子はその女子からの提案に正面から異

論を唱える形で案を発することが多いように感じられる。ただ、グループ提案形式での活動では、グループ内での話し合いが多くなされるためか、活動に対しての集中力が高く、活動自体に活気が感じられるようになってきた。

しかし、まだまだ自分自身の意見（個人の考えとしての）を堂々と述べることのできる児童は少なく、特定の子の意見が主となり、話し合いが展開されることが多い。

## ② 話し合い活動に対する意識調査結果



- Q1 学級のことでも話し合いたいことはありますか。
- Q2 話し合いに自分の意見を持って参加していますか。
- Q3 司会をしたいですか。
- Q4 発表のとき、言葉遣いに気をつけて発表していますか。
- Q5 友だちの意見を聞いて、自分の意見を発表できますか。
- Q6 友だちのいいところを見つけようという気持ちで聞いていますか。
- Q7 きまったことに気持ちよく取り組んでいますか。

この調査は、本学級児童の話し合い活動への意識調査であり、その調査結果を考察することによって、本研究の手立てとし、今後子ども達の学校生活に役立てるために実施した。

- ・調査対象：本学級児童36名（男子17名 女子19名）
- ・調査日：2000年9月18日（月）
- ・調査方法：質問紙法による児童の回答で、回答用紙に記入
- ・調査項目：7項目

写真①

写真②

みんなでしっかり話し合おう！

「議長！2班はたくさん意見がありま〜す！」

3 活動計画(「環境美化に関する指導」に関連するものを抽出提示)

月	特別活動	各教科	道徳	総合的な学習
4	◇教室・花壇・畑の整備をしよう。	<u>理科</u> ・あたたかくなると	<u>自然愛</u> ・アリじごくが生き	<u>SOS!</u> <u>地球環境レスキュー隊</u>
5	◇松葉牡丹を植えよう。	<u>社会</u> ・水はどこから	返ったら <u>郷土愛</u>	・生き物を育てよう
6	◇水まき当番について	<u>理科</u> ・生き物の一日と人の体	・牧志宗得 <u>敬虔</u>	・野菜を育てよう。
7	◇お楽しみ会の計画	<u>社会</u> ・ごみノートを作ろう	・花さき山	・エネルギー問題を考える。
8	◇お楽しみ会(おやつ・キュウリサラダ作り)	<u>理科</u> ・暑くなると <u>算数</u> ・折れ線グラフ		・ごみ問題を追及しよう。
9	◇教室・花壇・畑の整備をしよう。			・自分の考えを持つとう。
10	◇トマトの苗を畑へ			・平和って何だろう。
	◇収穫した野菜をどうする? <u>収穫した野菜を売ろう</u>	<u>社会</u> ・清流をとりもどそう	<u>自然愛</u> ・ハクチョウの湖	
11		<u>理科</u> ・すずしくなると	<u>勤労</u> ・親子せいそう	
12	◇売上金をどうする?	<u>社会</u> ・小国町のまちづくり		
	◇お楽しみ会の計画	<u>理科</u> ・寒くなると	<u>勤労</u> ・チュウリップの	
1	◇お楽しみ会	<u>社会</u> ・美しい海を守ろう	球根 <u>公德心・規則尊重</u>	
2	◇教室・花壇・畑の整備をしよう。 <u>収穫した野菜を売ろう</u>	<u>理科</u> ・生き物の一年を振り返って	・きけんです。ガラスが入ってます。	
3	◇売上金をどうする? ◇お楽しみ会の計画 ◇お楽しみ会 ◇一年間の反省		写真③	

畑の整備のはずが…、土と仲良くなりました……。

#### 4 本時の学習

##### (1) ねらい

- ① 友達の発表をしっかりと聞き、自分の発言に生かそうとする。
- ② 野菜を何らかの方法で販売し、それによって得た金銭により自らの教室環境などを充実しようとする。

##### (2) 準備・資料

児 童	教 師
・提案書 ・記録写真等	・VTR ・移動式黒板 ・DVC

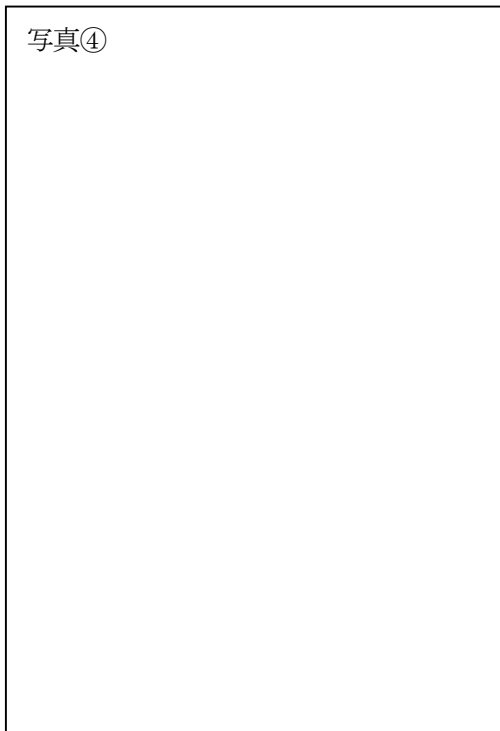
##### (3) 展開 □=発問 ・=反応

	学習活動	主な発問と予想される反応	活動への支援
導入 5分	1. 前時までの学習を振り返るという事でVTRを観る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">VTR を観て何か感じることはありませんか。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きっかけ。</li> <li>・ 夏休み中の水まきは大変だった。</li> <li>・ 実がついたときはうれしかった。</li> <li>・ 収穫したときはうれしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートの結果報告を行い課題意識を持たせる。</li> <li>○ 課題提示</li> <li>○ 苦労したこと等を思い起こす。</li> <li>○ 環境保全に関する学習との関連を思い起こす。</li> </ul>
展開 20分	2. 野菜の販売方法についての各班(1～6班)のグループ提案を聞く	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">収穫した野菜を売ろう！</div> <p>発表形式 各班(1～6班)のグループ提案(3分)を聞こう。</p> <p>(案) 販売方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「宣伝をする。」</li> <li>・「無人販売で行う。」</li> <li>・「先生に販売する。」</li> <li>・「行事のとき売る。」</li> <li>・「地域で売る。」</li> <li>・「無人販売を行う。」</li> <li>・「正門で販売する。」</li> <li>・「公民館で売る。」</li> <li>・「どこかに売りに行く。」など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヘチマの写真・めあてを提示</li> <li>○ 司会・記録に進行を引き継ぐ。</li> <li>○ 生活班での提案</li> <li>○ 提案したいことを事前に確認しておく。</li> <li>○ 各班で発表資料を準備させる。</li> <li>○ 発表資料(写真、提案書など)</li> </ul>
展開 15分	3. 各班の提案をもとに、学級として最善の野菜の販売方法について話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">どんな販売の方法がいいかきめよう。(議長の言葉)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>宣伝をしてから、正門で無人販売をする。</u>」</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「決定した販売方法」</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各班のいい意見を取り入れながらまとめる。</li> </ul>

ま と め     5分	4. 次時の話し合い について確認す る。	<div data-bbox="608 136 1061 215" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         売り上げ金はどうしますか。       </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室をきれいにするためのペンキを 購入する。(案)</li> <li>・ 花の種を買う。(案)</li> <li>・ 金魚のエサを買う。(案)</li> <li>・ お楽しみ会で使う。(案)</li> </ul>	○ 司会を引き継ぐ○ 次時は売り上げを どのように活用す るかを決定する。
-----------------------------------	-----------------------------	---	--

## 5 評価

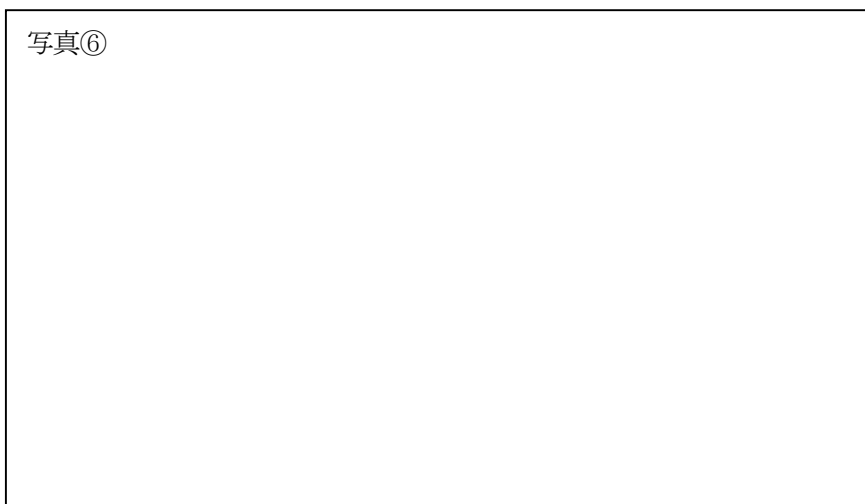
- ① 友達の発表をしっかりと聞き、自分の発言に生かそうとしていたか。(関心・意欲・態度)
- ② 野菜を販売し、それによって得た金銭により自らの教室環境などを充実させることができたか。(自主・実現)
- ③ 話し合いに積極的に参加していたか。(関心・意欲・態度)



教室裏の環境畑でEM菌生ゴミ処理(白いバケツ)



EM菌で野菜も土も元気いっぱい！！



2回目の販売へ向けて……(しまな・なっば・二十日大根・五十日大根・ほうれん草)

## 成果と課題

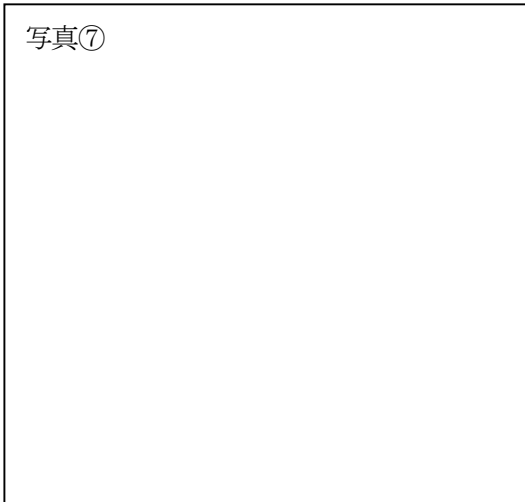
### 1 成果

- 多くの児童が体験からの喜びを経験することができた。
- 意欲的・主体的に体験活動を行う児童が増えてきた。
- 体験活動を通しての各種資料（提案）づくり，調べ学習に意欲的に取り組んでいた。
- 組織づくりという視点に立つとき，グループ一人ひとりに対しての役割分担が活動の多く場面において効果的・機能的に作用した。
- パソコンなどの機器を使い，体験活動に通ずる広告（チラシ）作りを行うなど，当初予想していなかった活動内容に意欲的に取り組む児童が出てきた。また、子ども達の意欲からPTA行事において、地域にある研究機関での野菜作りを見学することができた。
- 話し合いの内容を「真剣に聞く」という態度を持って，多くの児童が話し合い活動に参加するようになってきた。
- 野菜の販売という実体験を通しての金銭教育を行うことができた。

### 2 課題

- 体験活動そのものの場面においては，多くの児童が意欲的な活動を見せていたが，話し合いの場面においての発言によって，それらの活動に対する改善策等の発展的な意見を一般化することがなかなかできなかつたように感じられた。
- 話し合いの方法を身につけさせ，意見をどのように引き出し，展開させていくかというような計画的・系統的な指導の方法の一般的な手順のようなものの作成・設定が必要。
- 話し合いを効果的・機能的に展開させるための司会の訓練が必要。リーダー育成も兼ねて。
- 子ども達が満足する話し合いの時間を保証した指導案の作成・授業展開の重要性。

写真⑦



まずはグループでじっくりと話し合おう

写真⑧



国際農林水産業研究センターで野菜作りを見学

### < 主な参考文献 >

文部省	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」	2000
文部省	「小学校学習指導要領」	1999
宮川八岐	「特別活動の学習指導の改善の視点」『初等教育資料』(No.717)	2000

